

諸家系譜

位
一 庄田 庄 澁江 波川

太政官文庫			
三三九	三三九	和	書門
架	函	號	類

内閣文庫			
三三九	三三九	和	書
架	冊	號	類

内閣文庫			
番號	和	32649	
冊數	225 (214)		
函號	156	23	

共二百廿五内

共八十七



未三月晦日
深口右様書出

系譜

平氏
系譜

平氏
二百七拾番書 ○ 坂田番書

小菅信組
深口右様書出

左田五六席

德和源氏

名田

姓号之籍

福井 吉武

先祖名田北後与源安弘丹波公
氷上朝小掾之在二代之位后知
限三万石余

公孫之故

根川榮

幕之故

根川榮

家之故

根川榮

留故

根川榮

德和天皇六代之孫

或能春備美守源

源口位下 四品

肥後守

安弘

安弘母源公右并源一統之別丹波公氷上朝
小掾之在二代之位后知源安弘丹波公孫之
後花園院公之文安年中之以上系

神皇正統記之記源公位下其後

後去平内院之序之寛西年中之記源公位下其後

源公位下 敬或付伏 而遊之而所由

源公位下 常之志願 而感之上危上之

源公位下 常之志願 而感之上危上之

源公位下 常之志願 而感之上危上之

九指采之修言丹陽不於其前病死年月不知
葬地法名不知

高家之化源之物在代之市物之市物之
類大性夫為細之國在永而中

安系

從位下位品 右系之史 水對改節

此後之安系病子

後云神門院(中)之史於六甲午年一月日不知父安系
年高身有疾

常家之信之信之信從位下右系之史其後其故
只果於高家病死年月之葬地法名不知

安家

中系

右系之史其後病死安系之病死後連之故
右後丹陽(中)水之故於小橋之底病死年月
日葬地法名不知

安元

左系

此之市安系病死安系之病死後連之故
右後丹陽(中)水之故於小橋之底病死年月
日葬地法名不知
右後丹陽(中)水之故於小橋之底病死年月
日葬地法名不知
右後丹陽(中)水之故於小橋之底病死年月
日葬地法名不知

安守 布九節

母 節自不知
妻 丹波守人 井伊守元宗女

安守丹波守元宗女元宗之孫也其父安守元宗
元宗之孫也其父安守元宗之孫也其父安守元宗
元宗之孫也其父安守元宗之孫也其父安守元宗
元宗之孫也其父安守元宗之孫也其父安守元宗

安守元宗之孫也其父安守元宗之孫也其父安守元宗
元宗之孫也其父安守元宗之孫也其父安守元宗
元宗之孫也其父安守元宗之孫也其父安守元宗
元宗之孫也其父安守元宗之孫也其父安守元宗

安守元宗之孫也其父安守元宗之孫也其父安守元宗
元宗之孫也其父安守元宗之孫也其父安守元宗
元宗之孫也其父安守元宗之孫也其父安守元宗
元宗之孫也其父安守元宗之孫也其父安守元宗

安守 安守元宗

母 井伊守元宗女

安守元宗之孫也其父安守元宗之孫也其父安守元宗
元宗之孫也其父安守元宗之孫也其父安守元宗
元宗之孫也其父安守元宗之孫也其父安守元宗
元宗之孫也其父安守元宗之孫也其父安守元宗

めくれず

安守 布九節

母 節月系

妻 井伊守宗女

安守丹波小三父安元玄二子年少机父安元
信康之方御子 伊書云如下方内 石川守備其節

安守三三割下 石川守備其節 伊書云如下方内
之 後 伊書云 中 伊書云

信康信康之方 伊書云如下方内 伊書云如下方内 伊書云如下方内

伊書云如下方内 伊書云如下方内 伊書云如下方内 伊書云如下方内
三割 伊書云如下方内 伊書云如下方内 伊書云如下方内

伊書云如下方内 伊書云如下方内 伊書云如下方内 伊書云如下方内
伊書云如下方内 伊書云如下方内 伊書云如下方内 伊書云如下方内

安守 布九節

母 井伊守宗女

安守丹波小三父安元玄二子年少机父安元
信康之方御子 伊書云如下方内 石川守備其節
安守三三割下 伊書云如下方内 伊書云如下方内
伊書云如下方内 伊書云如下方内 伊書云如下方内
伊書云如下方内 伊書云如下方内 伊書云如下方内
伊書云如下方内 伊書云如下方内 伊書云如下方内

仕ゆへ後天正七己午年九月十九日丹波八幡
合戦名并 雲々々 宗重上等河北年餘在り

安之 陸軍卿

母 日上

船尾谷分藏田任長護下三石山以言り向ふ
光秀多三石山 天正十五午年六月光秀中
毛利家内政得通信信之別出陣 中
中石山 及遠之石山 宗重 宗重 宗重
武吉押之 練信之 宗重 宗重 宗重
中石山 宗重 宗重 宗重 宗重 宗重
光秀 宗重 宗重 宗重 宗重 宗重

光秀 宗重 宗重 宗重 宗重 宗重
比年宗重 宗重

安次

三石山人 宗重 宗重 宗重

母 日上

妻 節目五石

天正十五午年九月十九日丹波八幡
合戦名并 雲々々 宗重上等河北年餘在り
比年宗重 宗重 宗重 宗重 宗重 宗重
宗重 宗重 宗重 宗重 宗重 宗重

以智日向子光秀丹波美濃守母所元名佛
抽子相公相交り得た信長殿特許大軍
其以之政令有三年歳之於天四七已卯年九月
十九日所去子而保信方一誠者本府中而村
常陸介定光方一寄客仕以時在武三三
安次之在事一也信長又市九郎安吉之平
信三列、出陣奉申

信長殿 少事之信長安部殿之也為及
少安之有之也 右前之山口濱河之也之信下
以信長之也之信長美秀在信下之也之也
之也信長之也之信長之也信長之也 少信
不之信長之也之信長之也 右前之信長

武名名所仕外奉月日信長其後天守八原等事
其由田中少將之時信長仕信長武相岩槻陣
時信長之也之信長之也 信長之也月岩槻之也
其信長之也之信長之也 信長之也月岩槻之也
世信長之也之信長之也 信長之也月岩槻之也
言荒之也之信長之也 信長之也月岩槻之也
信長之也之信長之也 信長之也月岩槻之也
其信長之也之信長之也 信長之也月岩槻之也
上國之也之信長之也 信長之也月岩槻之也
信長之也之信長之也 信長之也月岩槻之也
市九郎安村素信仕九月日信長之也月岩槻之也
出生仕之也之信長之也 信長之也月岩槻之也

少志也、越也、法也、辰也、辰也、辰也、六月、日、辰也
 男子也、坐也、辰也、辰也、辰也、辰也、辰也、辰也、辰也
 辰也、辰也、辰也、辰也、辰也、辰也、辰也、辰也、辰也
 辰也、辰也、辰也、辰也、辰也、辰也、辰也、辰也、辰也
 辰也、辰也、辰也、辰也、辰也、辰也、辰也、辰也、辰也

辰也、辰也、辰也、辰也、辰也、辰也、辰也、辰也、辰也
 辰也、辰也、辰也、辰也、辰也、辰也、辰也、辰也、辰也
 辰也、辰也、辰也、辰也、辰也、辰也、辰也、辰也、辰也
 辰也、辰也、辰也、辰也、辰也、辰也、辰也、辰也、辰也
 辰也、辰也、辰也、辰也、辰也、辰也、辰也、辰也、辰也
 辰也、辰也、辰也、辰也、辰也、辰也、辰也、辰也、辰也

辰也、辰也、辰也、辰也、辰也、辰也、辰也、辰也、辰也
 辰也、辰也、辰也、辰也、辰也、辰也、辰也、辰也、辰也
 辰也、辰也、辰也、辰也、辰也、辰也、辰也、辰也、辰也
 辰也、辰也、辰也、辰也、辰也、辰也、辰也、辰也、辰也
 辰也、辰也、辰也、辰也、辰也、辰也、辰也、辰也、辰也

辰也、辰也、辰也、辰也、辰也、辰也、辰也、辰也、辰也
 辰也、辰也、辰也、辰也、辰也、辰也、辰也、辰也、辰也
 辰也、辰也、辰也、辰也、辰也、辰也、辰也、辰也、辰也
 辰也、辰也、辰也、辰也、辰也、辰也、辰也、辰也、辰也
 辰也、辰也、辰也、辰也、辰也、辰也、辰也、辰也、辰也

頂戴之化令以而務信 在御書家

今度乃故之口
強之口口口口
之口口口口口
及年口口口口
沖口口口口口
口口口口口口
口口口口口口
六月十日
口口口口口口

如次依控元住持年月日年月日
五 御書家口口口口口口
控元住持口口口口口口
萬光口口口口口口
其後口口口口口口
口口口口口口
口口口口口口
六之口口口口口口
一條口口口口口口
正定院口口口口

安村 市九席

母 節月事部

善 水官部一古り結縁也

孫居守り美奈米

元龜元年庚午年一月の五日に於て丹波出雲國船屋

権理權上申目見仕合年りの如知申事其妻申仕りし

父安次而く親徳に右連天正十八庚寅年小田原

陣に在りて親徳に右連天正十八庚寅年小田原

安照

小古事 陸奥記

孫居守り美奈米

母 水官部一古り結縁也

善 水官部一古り結縁也

天正十八庚寅年六月廿九日
此後之儀前次安村村御所
仕知事付控書

後附錄下 御目録在年月日
日新記長十九甲寅年六月廿九日
日二十乙卯年五月廿七日
日辛祖父安次郎之遺徳
御目録在年月日
御目録在年月日
御目録在年月日

御目録在年月日
御目録在年月日
御目録在年月日
御目録在年月日
御目録在年月日
御目録在年月日
御目録在年月日
御目録在年月日
御目録在年月日
御目録在年月日

右後附錄 御目録在年月日
右御判物字

大和公山邊郡
和川南庄行年養生
申事方生能き
御目録在年月日

同ノ旨教恒川守御村
為河内小治以に付村
九百九拾石存於公
此ある事之状也
可令知之也

天保二
三月五日
御朱下

左田丸三郎

同年二部老志山御書後より云 御書小月
馬知お上角南之馬

大藏院様宛之九月五日 御書小月

大藏院様御書 御書小月

此月山御書 御書小月

右上月御書 御書小月

月御書 御書小月

本月上御書 御書小月

之御書 御書小月

之御書 御書小月

早速出立 御書小月

一物御書 御書小月

御書小月 御書小月

月御書 御書小月

台津院様 仰使界之申寛永九壬申年二月廿三日

御遺合限或百枚頂戴

大猷院様 仰代日年九月二日此書履き以新祝也及

云御有之月日因考以御 是上之書其心持以

了御御之御後 仰秘廻仰門之権徳御

日十亥 西年十月八日此御書之江州港御

之御使 仰御御之書在御於合之御

東照宮 仰天出書履き以御 仰御日之御在御

御下之在御書履き以御 仰御御之御在御

御履き以御 仰御御之御在御

比前承得承一様之御有之御日之御書履き以御

甲進之御書履き以御 仰御御之御在御

乙進之御書履き以御 仰御御之御在御

丙進之御書履き以御 仰御御之御在御

丁進之御書履き以御 仰御御之御在御

戊進之御書履き以御 仰御御之御在御

大猷院様 仰使界之御

後有後様上御書履き以御

最急之御書履き以御 仰御御之御在御

御書履き以御 仰御御之御在御

御書履き以御 仰御御之御在御

江戸御宗師之宗化用山浄念寺小塔在法石
法洋院是并其真

安勝

乙亥

北代松

田

実長切段分多女
白井右近之史忠信喜

清江齋権持

実全川右衛門入

中村信之丞

妻

小畑南之丞常憲喜

作宗元氏年中右長御大之上

上御之御在勤王之上

因上甲申年

天樹院権下

天樹院権 中入家 常備下増國仕

奉月の子

元和二丙辰年六月十八日於彼所出生仕知

古住院権下 御目見仕申奉月の子

大猷院権 御代寛永申上甲辰年十一月の不知御

御書院番朽木氏於御權下御多入天 作

御切末御百信

意方院権御代御層二丙申年十一月六日又

御成三乙亥申年中御目御九日名知日

正月十八日御大火

全三首支御仕

万保元氏申年八月八日於

御眼

後甲辰年二月

病者... 入其後... 祖父... 十月... 江戸... 大坂町... 女子...

母 同上

安利

母 小幡... 妻 大坂町... 安安三度... 有院... 菊... 其... 永... 江戸...

銀三指投洋銀五
作月廿四日十八日初九
多日 減小者 借主住終
作月廿九日三年七月十日入
三有三月九日利下或子六百
左等安候下 日古名分知
也礼月。五知其後三
安利或の六百三月古名分知
子能り知齊持
五知其後三
作月廿九日三年六月六日
作月廿九日三年六月六日
日七三年八月十日

常憲院様 申代 日八庚申年八月六日 東 敷山

言 常憲院様 申代 申建 三 月 也 常 儀 出 用
五 作 月 廿 九 日 禮 拜 終 云 知 元 年 五 年 以 月
其 言 考 據 仕 也 言 儀 候 終 候 言 上 仕 候
日 六 月 十 八 日 力 上 力 申 慶 儀 候 終 候 二 知 力
其 合 三 候 終 候 仕 日 年 七 月 六 日 終 慶 儀
三 知 力 天 知 三 考 三 年 三 月 十 日 終 慶 儀 候 終
作 月 廿 九 日 十 月 廿 六 日 力 上 力 申 慶 儀 候 終
二 知 力 其 合 三 候 終 候 終 候 申 代 候 終 候
即 免 申 書 申 代 自 享 元 甲 子 年 儀 候 終 候 終 候
申 代 候 終 候 終 候 終 候 終 候 終 候 終 候 終 候
五 即 免 申 書 申 代 自 享 元 甲 子 年 儀 候 終 候 終 候

勘取 御寄 乙丑年七月廿三日 乙丑年十月十九日 乙丑年三月廿八日 乙丑年二月十日 乙丑年九月十八日 乙丑年七月十九日 乙丑年六月十九日
乙丑年七月廿三日 乙丑年十月十九日 乙丑年三月廿八日 乙丑年二月十日 乙丑年九月十八日 乙丑年七月十九日 乙丑年六月十九日

六月十九日 乙丑年六月十九日 乙丑年七月十九日 乙丑年八月十九日 乙丑年九月十九日 乙丑年十月十九日 乙丑年十一月十九日
六月十九日 乙丑年六月十九日 乙丑年七月十九日 乙丑年八月十九日 乙丑年九月十九日 乙丑年十月十九日 乙丑年十一月十九日

那上級の内外... 江戸幕府の御用... 松平母殿...
五原地方... 御目見... 六月... 御目見...
十七日... 御目見... 六月... 御目見...
日七... 御目見... 六月... 御目見...
御目見... 六月... 御目見...

松平母殿... 御目見... 六月... 御目見...
御目見... 六月... 御目見...

此書所記之田土係在... 安後... 乙酉年九月... 日守... 安後... 乙酉年九月... 日守...

安後 乙酉年九月

母 同上

安後... 乙酉年九月... 日守... 安後... 乙酉年九月... 日守...

安後... 乙酉年九月... 日守... 安後... 乙酉年九月... 日守...

此書所記之田土係在... 安後... 乙酉年九月... 日守... 安後... 乙酉年九月... 日守...

刊貞 後三冊 始百二冊

母 同上

書 卷一

此書... 乙酉年九月... 日守... 安後... 乙酉年九月... 日守...

女子

母

女子

母

女子

母

此女子... 早世... 定言書

某

母

元禄... 三月... 早世

女子

母

安道

母

常憲... 七月... 早世

父安利... 日年... 早世

秋上ノ 雲ノ 浪長ノ 秋上ノ 年終ノ 赤白
月似中紀也 唯作中

文照院探中代大將佐宗子也 其後元壽元年
十月七日形之通向後之格而伴出仕之仕者
此等事ノ後ノ一也 唯作中 元壽二年十二月
自今ニ至る迄ノ一也 唯作中 元壽二年
元 唯作中 其後元壽元年八月十日
同日ニ至る迄ノ一也 唯作中 元壽二年
元壽元年八月十日 同日ニ至る迄ノ一也
唯作中 元壽元年八月十日 同日ニ至る迄ノ一也
唯作中 元壽元年八月十日 同日ニ至る迄ノ一也

其後元壽元年八月十日 同日ニ至る迄ノ一也
唯作中 元壽元年八月十日 同日ニ至る迄ノ一也

貞節... 伊藤... 完... 戸川... 病... 院...

某 伊藤 早世

母 同上

名... 年... 月... 日... 病... 院...

女子 母 同上 細井...

女子 母 同上 曲...

女子 母 同上

女子 母 同上

某 氏...

母 氏... 氏...

日九... 隆...

安隆 大八...

氏... 氏... 氏...

安政 卯女

書 信書

元禄十一(一)寛政二年四月の事知れず不詳

有徳院様 仰代父安通候に事無儀但自深様事迄
一書如方又長月之續候に事無儀九甲辰年四月
六の書あり云々其後未詳知候事云々
高身之云々
安政候事知候事は元禄寛政二(一)年四月事
吉又安通候事云々 仰代...
二書又安通候事云々...
三書又安通候事云々...
四書又安通候事云々...
五書又安通候事云々...
六書又安通候事云々...
七書又安通候事云々...
八書又安通候事云々...
九書又安通候事云々...
十書又安通候事云々...
十一書又安通候事云々...
十二書又安通候事云々...
十三書又安通候事云々...
十四書又安通候事云々...
十五書又安通候事云々...
十六書又安通候事云々...
十七書又安通候事云々...
十八書又安通候事云々...
十九書又安通候事云々...
二十書又安通候事云々...

寛政二年三月廿八日 純目少礼の事
之致高身より以後事知候事は元禄寛政二(一)年四月事
相成事一書云々...
因事云々...
寛政八(一)年八月廿九日 陽辰...
此より以後事知候事は元禄寛政二(一)年四月事
江外家歴日中辰年土月...
事知候事は元禄寛政二(一)年四月事

安政

小左馬 卯女

吉母 乙酉年

吉母 乙酉年

吉母 乙酉年

吉母又安隆後出也通吉子所出後安隆年八月廿一日
川子不知於何年所授可一後化出生仕也安隆
甲子吉母年有嘉保二乙酉年八月廿一日
此吉子所出吉母又安隆高年有

有德院棟御代寬延二乙酉年七月廿一日
此吉母所出吉母又安隆高年有
八月廿一日通自一少化也其日自派一後化也
此日乙酉年九月廿一日或後安隆高年有

幕寺日上法戶方出院西卷別原

安久

下橋吉 如乙酉年 吉子 德在吉有原

吉母 乙酉年

吉母 乙酉年

吉母 乙酉年

吉母 乙酉年

吉母 乙酉年

吉母又安隆後出也通吉子所出後安隆年八月廿一日

川子不知於何年所授可一後化出生仕也安隆
甲子吉母年有嘉保二乙酉年八月廿一日
此吉子所出吉母又安隆高年有

改在日年三月十八日布衣言 作有日月月
 易妻古飲也月代事考一之 如朝在官殿原任
 神使也 日七庚寅年二月廿日 即日在任
 如服黃令有校抄所任日年十月終有月
 即日在任安取二套三年四月廿日出元在任
 如之也 日終收衣衣 作有日年十月終有月
 聖儀改南之抄收某三月進之勤言 即日在任
 日年七月終收衣衣 作有日三月廿日終有月
 即日年二月十二日
 仙洞中別 日三節 收衣衣 作有日終有月
 日十二月終 即日在任服黃令有校抄所任
 孫儀抄所任日月廿日自高取衣衣而月終

四 院系注健之位下十終言 日推取衣衣而月終
 日六丁酉年三月廿日

仙洞中別 日三節 收衣衣 作有日終有月
 如會殿衣衣日同七月成年日終有月
 即日換係系上 即日在任衣衣日終有月
 日終收衣衣上 即日年七月廿九日病衣衣終有月
 即日 即日免考衣衣 作有日終有月
 日 即日後之後病衣衣終有月 十二月
 日八日十月廿六日病衣衣終有月 三套和年正月
 元日在任終有月 即日在任衣衣終有月
 日終收衣衣 即日在任衣衣終有月
 當日代 實取元 三為年日三月廿日 又日終有月終有月

令使出使示下任解... 四年十月七日
臨在事終... 日年十一月十九日... 通海居
... 係... 督... 乙... 安長... 督...
... 母... 及... 係... 日... 月... 日... 居...
... 以... 勅... 上... 任... 日... 二... 庚... 戌... 年... 三... 月... 丙...
... 薙... 髮... 仕... 菊... 荷... 之... 政... 令... 仕... 以

安長

乙改而

如名之改而

安母

中... 安母

... 川... 左... 右... 一... 興... 運... 育... 母

安女

安女

... 山... 之... 針... 一... 次... 女

安妻

安妻

... 朽... 木... 刺... 負... 志... 個... 女

以和... 丁... 戌... 年... 一... 月... 七... 日... 江... 戶... 幕... 府... 所... 發... 給... 執... 照...
... 出... 生... 任... 官... 及... 以... 元... 正... 年... 一... 月... 十... 九... 日... 又... 上... 備... 書...
... 安... 久... 於... 通... 海... 居... 係... 督... 督... 乙... 次... 而...
... 安... 長... 下... 江... 戶... 幕... 府... 所... 發... 給... 執... 照... 係... 督... 督... 乙... 次... 而...
... 小... 官... 係... 督... 督... 乙... 次... 而... 係... 督... 督... 乙... 次... 而... 係... 督... 督... 乙... 次... 而...
... 十八... 日... 總... 目... 少... 元... 以... 多... 日... 自... 係... 督... 督... 乙... 次... 而... 係... 督... 督... 乙... 次... 而...
... 狀... 上... 了... 任... 中... 國... 二... 庚... 戌... 年... 一... 月... 三... 日... 年... 係... 督... 督... 乙... 次... 而...
... 令... 係... 督... 督... 乙... 次... 而... 係... 督... 督... 乙... 次... 而... 係... 督... 督... 乙... 次... 而...
... 多... 係... 督... 督... 乙... 次... 而... 係... 督... 督... 乙... 次... 而... 係... 督... 督... 乙... 次... 而...
... 明... 令... 多... 係... 督... 督... 乙... 次... 而... 係... 督... 督... 乙... 次... 而... 係... 督... 督... 乙... 次... 而...
... 係... 督... 督... 乙... 次... 而... 係... 督... 督... 乙... 次... 而... 係... 督... 督... 乙... 次... 而...
... 同... 六... 甲... 寅... 年... 七... 月... 十... 六... 日... 夏... 係... 督... 督... 乙... 次... 而... 係... 督... 督... 乙... 次... 而...

因七乙卯年六月廿五日三拾第... 葬寺日上... 墓穴門

直吉 浦候

母 洲川左衛門一與後身

昭和七年庚午九月二日... 於... 又... 吉...

女子

母

日上

伊田平次郎正藏書

女子

母

伊田平次郎正藏書

女子

母

伊田平次郎正藏書

安福

五六節

母

伊田平次郎正藏書

書

伊田平次郎正藏書

乙改帝一母母政武多由是方产田帝母母
 作后小量信臣巨快方在方之方家母母母
 三月廿二日建日法礼也方日自能也方代法
 三夜知年方以信臣秋方之信日八西辰年
 九月于海台方和方方方方方

果 廿八帝

母 日上

女子

母 日上

右之通也海方之

言或子六百名 詔

神武天皇

神武天皇

寛政十三年十月

天田之帝

四

未十二月

天田安房守

年成

三百七信番

□

天田安房守

系譜

年良

天田安房守

天田安房守

後和原姓

在田

後土師門院

洋成之故

根川菊

幕之故

根川菊

家之故

赤角一橋菊

田之故

入三三桐

三夏安勝二里

二二二

少帝五号

安議

母

後行國言忠長台清

小畑高之信京憲高

室名今川源漢人中村臣舟高秀安女

室名四幸卯年十一月八日江左全出坐休

後有院棟印代實文九乙酉年七月十日父居田

三乙亥入安高子能香少也能行言子乙子

石之月日言乙子知信願

作有江州遠雲能山以良村才能

比小吉信御川七乙乙乙乙乙

實久入上一年亥年九月十日乙乙乙乙乙

香入乙作有海井伊能也能乙乙乙

進家入丁二年二月十七日行乙乙乙乙乙

叶加友六百六拾年余洋后仕

貞享元甲子年三月廿七日往番寄物

送言為御慶天公武取洋后仕

他五部の内在番取取知事

元禄十二戊寅年十月廿六日病死仕年

里在八中令之所修之宗願松山昌法

守葬中

法名寂光院通譽理微

書 二浦庄より直書

某 早世 万吉

母 前同

安房 此安房 又安房 一安房

母 前同

延享二乙卯年六月廿九日江戸に出仕仕

貞享四丁卯年七月日記

常憲院攝印 御目見仕

元禄六癸酉年十二月九日往知徳寺

番中出番入云 作有少知余等

少知是酒井右衛門兵衛

元禄十一戊寅年十二月十八日又前在り
多議取或より

元禄十二乙卯年九月十三日山越

而く山越全兵り

殿より後酒井右衛門左衛門全兵

再修修修

元禄十六癸未年十二月八日地養

三月廿日新設場廻

同十七甲申年正月晦日

伊免

當承之西成平四月廿三日

人杖持り

元禄四丁亥年二月十日

元禄四丁亥年

元禄四丁亥年二月十日

元禄四丁亥年二月十日

元禄四丁亥年二月十日

元禄四丁亥年二月十日

元禄四丁亥年二月十日

元禄四丁亥年二月十日

元禄四丁亥年二月十日

表上為四眼 時彼二念及洋船往
於海河橫田 以門限為要 此古作
多由是常修神 今或百支 抄本或
多由洋船往
室永七庚寅年二月十六日病案
二年於通也後 伊免因年四月
六日小書傳入云 伊自洋國歸云
但云云
享保九甲辰年十月九日大書也後
番云 伊自洋井為編也云云

享保十二丁未年正月廿九日
後略也 伊自洋所 需新
二日也 伊自洋所 需新
享保九甲辰年二月十九日
初由伊自洋所 需新
水野和泉寺及 伊自洋所
伊自洋所
享保十二丁未年十一月廿日
但伊自洋所 需新
伊自洋所 需新
伊自洋所 需新

遺之續少少以類通者多

作有以水野和泉殿之信後

以辰酒并日向寺中後

元文元西辰年十一月十二日新番

中番智元 作有小坐高年之信

組之信

寬保元辛酉年二月三日新番

組之信少少知以和老妻住中寺

跡五知以少少信入寺能少

延享元甲子年四月廿九日新番

四番 信元少信入寺 作有少

板倉信向少及少信後少信少

次信少信少信信組少信少

少信少

但大信香中知自寺香教少信

延享二乙丑年一月十二日新番

七十一本信元所信少信少

昌信寺上茶中信寬竟院一

宗心

書信少信少

書 三浦信少信少

安政

年七節

母

新世香梅園三子り但

三浦衣衣乃志志女

兄元介三子乃志志重保十三日甲午
八月廿六日病死仕中

果

早世

宋女

母

上書後絶大信能也

三浦衣衣乃志志女

安信

同務也

後居在岩水

若母

三浦衣衣乃志志女

若父

三浦衣衣乃志志男

若母

若女

氏若和

西徳元幸卯年一月の若和は産屋に在

有徳公 仰代衣衣乃志志安信乃志志海井

日向但和助の若和男子若和乃志志

同務也安信様乃志志續 十人

若和子信乃志志若和

重保十二丁未年十一月廿日服通若

子重 仰代乃志志乃志志重保乃志志

若和乃志志乃志志海井日向乃志志

延享二乙丑年一月十二日若和乃志志

安清病北仕 同年七月二日因難
安信卜臨武方下 蜀山寺小堂修組
同友十次席一之紀 入中
延享二乙丑年八月十七日一信
勤番云 作月以同友十次席
中後勤番五部
延享二乙酉年十一月廿八日合高第
之紀 長病云 一 檢部番
以免之 辰年終之 慶因年六月七日
形之通部番 延免之 合田宗女

中後外

實延三庚午年十二月十日之
沼升之知与組中 信番入云 作月外
室曆以甲戌年一之 忌職前与組
一之 高第之 自少番信入之 終之 以
同年十二月八日形之通部番入云
作月以同友十次席修組 一 檢部番
但之向 延免之 合田宗女
延免之 同友十次席 在書在也 中
室曆十一乙亥未年二月六日 祝賀 延免之

後明之御代也書後也後示言在去乃去之紀
一書男子各言其所以言者乃其味
才書也之仕也書院書何本國防也
但小棠仁去乃信併以男年人
安億後了各以應以乃其言者也子
信安事能也處
明和元甲申年十二月十九日終之通
知事也子也 何月也之秋年國防也
王信後也後後事也乃中後也
以和元乙酉年六月十九日病卒二月

也事也助也助也助也助也
同年八月十九日終之通也也 何月
也事也之秋也後下家也也也也
何後也後也後也後也
安永六丁酉年六月九日病死也年
五十九也御國也也也也
後也也也後也也也也也也也

素 各在也

女子 早世

母 家母 氏也

安久

乙次郎 小左衛門 源兵衛 忠兵衛 兼房

母

新岡

寛延二庚午年一月廿二日 卯家 彦田

小左衛門 安貞 忠兵衛 彦田

安徳

平人 貞辰

若母

安徳 彦田

安久

小左衛門 彦田 信 彦田

安貞

小左衛門 彦田 忠兵衛 彦田

安久 小左衛門 彦田 忠兵衛 彦田

松平孫五郎 安久 女

元文元 西暦年一月廿二日 卯家 彦田

明和元 甲申年十二月十九日 卯家 彦田

卯家 彦田 彦田 彦田 彦田

明和元 乙酉年八月廿二日 卯家 彦田

安徳 彦田 彦田 彦田 彦田

安徳 彦田 彦田 彦田 彦田

安徳 彦田 彦田 彦田 彦田

安徳 彦田

明和元 西暦年一月廿二日 卯家 彦田

入心 作舟の松平太右衛門殿に
作舟の太右衛門殿に
右殿に書状形令十二文申上
云殿七丁未年十一月廿三日
仕上

寛政四丁壬午年十一月廿三日書状
出付了但し長病死仕上
七葉了前二回
法名及母院法名白融
書 右田因書出付信書

寛政四丁壬午年十一月廿三日書状

養女

右田主親寄信女

寛政四丁壬午年十一月廿三日書状

実母

右女 氏名

女子

右世

奴

右白

女子

右白 三浦友左衛門 直高書

奴

右白

安部

養女

右白

母 庄田因房の安信書

實了庄田の安信書

昭和丁未年二月三日江戸産出書

云云七丁未年二月十日父庄田の安信書

安信二條在書如附書

御目之信

寛政以壬子年十二月十日父庄田の安信書

信書如通致武部中書

庄田安信の安信書小書修信

通致在東京宛

大書書上書入 御目之信

与殿の信書庄田の安信書

同年二條在書如附書

寛政九丁未年二月十日父庄田の安信書

出書如通致武部中書

御目之信

庄田川信書

書

小長谷信九郎時雄書

庄田の安信書

母

家母 岩野氏

安國

信

信

修
書

—
石
田
氏
書

裏
面
白
紙

裏
文
書

母 前同

利家 宗三郎

母 前同

寛政八酉辰年六月廿九日大嘗会中務

通官他依之取合上之奉行 秀利

若子三子也

女子 早世

母 前同

女子

母 前同

女子

母 前同

女子

母 前同

右通四左少将上

高田百依

若子母依

在知事四左少将上

寛政十二申年十一月

高田宗左少将上 为

三十二歳

未三月某日
松平五郎松平公

先祖書

元禄二年
通陰流
後形

後形
あまの百口松平書。松平書

甲府初書
松平五郎松平公
元禄二年

後系姓

左

大藏冠孫良之流師因之長何國之
高之長帝家長十五代信仲松山
御之左信仲之子實三世浪人云
安藤公孫居信仲孫本系之忠信
長男若左之良實時之名左之政

家之政

三川

野之政

國扇

幕之政

玉文字

徳本市左門忠信長男

良賢

初伊勢松信吉命 別師 安藤 後系

叔 安藤國浪人 進藤之長孫也

妻 伊勢所傳者 坂井三左衛門政妻

安藤公孫居信仲孫本系之忠信

浪人云一族植本之苗字名孫若左

信野或孫也補中仕信信

元禄二己巳年七月十八日卒

常憲云下 御同見仕也例儒者後云 作身

也切末之可儀也及科 百儀之可儀

同八乙亥年十一月六日儒者
以迎聖壽云 作身

同十三庚辰年十一月廿一日以迎聖壽
云云重於公之日百依成右也迎聖壽

相勳云云云云

同永二乙酉年十一月廿一日

同永二乙酉年十一月廿一日
即奉 即書洋順仕

同三丙戌年七月廿五日

即奉 即書洋順仕

同永八月十二日

即奉 即書洋順仕

同丁亥年十一月廿一日

即奉 即書洋順仕

同永四月十三日

即奉 即書洋順仕

同永四月廿七日

即奉 即書洋順仕

同永五月十三日

即奉 即書洋順仕

同永八月十二日

御筆

御書勅使外

右之通洋願仕令以可揚仕

同去己丑年二月廿一日表儒者外作有

同去十月十二日評定新節後外作有

少收科少信後外作有

西使之去己年八月廿一日病外有於

通口波 此免其書後外有能書他外

去保八亥卯年六月十二日病外仕外

年六十九治通新元外

法名 顯孝 怡造了宿

良意

佳命

母 坂井三左衛門政直女

妻 甲府勤書外 保書左衛門政直女

生或冊

享保八亥卯年九月二日父於通

於自云 作有少書信他外有安外

子冊

同九甲辰年八月十二日甲府勤書外

作有書島出相外有宛成日月海外於

甲府初代経世公

江戸八代副司存洋順初代公

同平九月廿八日甲府出陣

有徳公 即日又往甲府下兵隊 中務卿兼任

同十八日庚申年十一月廿日甲斐守

梨政府中郭内表下少所 病死任

年一十二日甲斐守高亮守村能成守

藤 法名義後宗哲

愛資 初之節 後在寺

母 同上

兄徳の節良意甚く成

女子 忠性 不交多田常春

母 同上

女子 小善徳 高節之孫書

母 同上

愛資 初之節 後在寺

女子 忠性 不交多田常春

女子 小善徳 高節之孫書

女子 忠性 不交多田常春

女子 小善徳 高節之孫書

喜 甲府印書 同文十九年信真女
生或品

享保十六年三月方見良意
形通愛護汝未初喜子云 作月
吉文治自於通云 作月甲府印書
文務若按古之紀成部書云 作月
同年六月江戶系上仕七日終
有徳云 作月之化西九上云 同秋秋上
仕四礼中上信府部書仕云
宝曆七丁丑年十二月十九日候後月

別取書系中候
同九己卯年二月七日病系有於通
候候 也免掃書云信後云
同十二壬午年十月廿三日病系有於通
信系云 作月
以和八年卯年十二月廿日早府言病死
年七十一 葬寺早府口上
信名 見外禪性

次員備

信在考

母 同文十九年信真女

妻 甲府勤番 石川彦直而致隆女

生 甲府

宝曆十二年十一月廿三日父常賢

形之通陽在云 作有家智賢依上

父在甲府勤番八木丹後言之在云

勤番云 作有

以和八代三年六月廿九日父在信同日

十六日終身一四九上云烟林在

後明公上仰自是任西尾上云同秋勤与物

仕四九上云

同日五七日甲府上四服云力是信番

勤番仕云

天明六乙三年一月廿七日於甲府

病死年六十二葬北甲府前田

光家

大信新御

母 同文十九年信真女

宝曆四甲戌年十二月十九日甲府勤番

大信在云父光收妻云云

守典

三宅恒之助

好 同上
富曆十庚辰年三月十六日甲府勤番
三宅十左馬殿 敬重 彦彦殿

資質憲

初秀彦 小藤美

喜母 石川彦臣節致隆女

實父 甲府勤番 岡本十左馬信平三男

實母 同 磯部元左馬守安女

妻 同 坪内新彦節定妻女

生甲府

安永九庚子年九月廿三日 從弟
續子以資質傳年庚子年

天明八乙巳年四月廿日 出資父次目

形通名 作月甲府勤番 磯部彦彦

支紀成勤番名 作月

同七丁 壬申年一月廿五日 知秋 遠藤屋敷

甲府勤番 同表下小次 彦彦 甲府

勤番 同 信彦 甲府 節内橋少次

彦彦 同 表對 節彦 通名 作月

實父 同 壬子年一月廿日 自江戶 彦彦上仕

六月朔日健自... 以礼中... 上... 洞... 子... 其
 又... 上... 仕... 即... 自... 久... 仕...
 同月十六日... 亦... 得... 所... 親... 或... 之... 甚... 矣
 唯... 仕... 以... 家... 子... 以... 載... 仕...
 同月十九日... 甲... 府... 上... 也... 服... 多... 有... 是... 皆... 府
 勤... 者... 仕...
 同七月卯年二月十三日... 甲... 府... 病... 死... 仕...
 年... 巳... 十一... 葬... 甲... 府... 同... 安...
 法... 名... 理... 法... 淨... 界...
 女子

母 家女

安永九庚子年十二月廿八日... 甲... 府... 之... 父
 資... 憲... 成... 卒... 年... 子... 子... 於... 以... 未... 葬... 矣
 作... 月... 以... 同... 年... 七月... 廿... 六... 日... 病... 死... 仕...
 初... 泊... 之... 也... 後... 在... 之... 也...

資言

苦母 母... 因... 窮... 而... 定... 存... 也
 實父 甲... 府... 勤... 者... 二... 完... 恒... 而... 守... 典... 次... 男
 實母 同 二... 完... 十... 五... 為... 敬... 之... 孝... 女
 妻 苦... 父... 之... 命... 多... 矣... 資... 憲... 女

生甲府

寛政七乙卯年六月六日吉方候
續々以所命之資憲未為事
吉子孫女吉又取目形通々作月
甲府御番永見何様之在候所
御番之作月

同十乙卯年二月二日松平之申取之在候

女子

吉子資言書

母

伴月形之命定在女

女子

母

上同

女子

母

上同

右之通以在以上

高江百儀

中園信中
生國甲斐

加美甲府御番因橋所

文化元甲申年七月

高江百儀
三十一歳
取

西暦...
...

御筆
御書
御画
字
...

甲府御番
...

御裁物指地

忠 信 綱吉
御朱印

寛永二年乙酉八月十三日

御裁物指地 御墨画

綱吉 御朱印
野馬

寛永三年丙戌七月十三日

御裁物紙地 御紋色

細吉筆 御朱下

鶏

享和三年丙戌八月十二日 洋順

御裁物紙地

麟鳳

細吉 御拵別

享和三年丁亥十月廿日 洋順

御掛物指地

壽 福 細吉 御朱印

寶永九年丁亥十月十三日 洋願

御掛物指地 御墨画

細吉筆 御朱印
山水

寶永九年丁亥十月廿六日 洋願

御掛物紙地

克
己
細吉 御朱印

室永元年丁亥十一月十二日 洋願

御掛物紙地

大字
朱文公
右大臣細吉 御朱印

室永元年戊子八月二日 洋願

右之通也

文化元年甲子年七月

左之通也

未上月晦
後通年十而不出

後通年
子之百口推量日如田書也

系後

未上月
後

小書後通後通年十而之記
左之通也

友系氏 伝

先祖友新巨師少孫氏康任天文八年
上月九日相冊少孫村辰辰子附十六年
判歌而持天文廿二年康子編判歌
而持与力足持百人於友進主之改

幕之改

九月三日

新之改

中ノ友

友九進主之康正編判

友法

友法世傳

少孫氏法任天文七年直一宗物判歌而持

天正十八年小田原落城後

修規様上在任中任法云

作月堂長入庚子年

因弟中陣供奉方被取而持供奉元形元

乙卯年八月廿七日死六十一年直法良

葬下不知

母書在不知

年月日不知書持出也

直重

友法傳

直重傳

母不知

書

因友系傳中

年月日不知其後不出生

後醍醐天皇御長十乙巳年十一月十八日 卯月

元和二年辰年

大猷院様上奉仕心七世御云 卯月廿五日

卯月廿五日卯月廿五日卯月廿五日

卯月廿五日卯月廿五日卯月廿五日

卯月廿五日卯月廿五日卯月廿五日

卯月廿五日卯月廿五日卯月廿五日

大猷院様上奉仕心七世御云 卯月廿五日

卯月廿五日卯月廿五日卯月廿五日

卯月廿五日卯月廿五日卯月廿五日

武藏守於新田郡上河井村或百石

或百石或百石或百石

或百石或百石或百石

令授仰事令下知行若也

元和二年

七月廿七日

卯月廿五日

卯月廿五日

直心

卯月廿五日

卯月廿五日

卯月廿五日

卯月廿五日

台使様
文獻院様

上仰月又仕奉安也幸卯年十月十七日

度有様様上

又公大御書云

仰有書信取致

以多包年日月多知以存亦亦知以存亦

寛文三亥卯年二月夕之知仰修書云

仰有少書云改云能云

常憲院様仰代天和二戌年六月夕之知

仰有和年右知以存亦亦知以存亦

八月廿夕之知六十元葉多知云寂云

系書院微云淨道

通安

左云云

母 寫云云云云云云云云云云云

書 五知

年号月夕之知或云云

常憲院様仰代貞享二乙丑年八月十二夕之知

以書云云 仰有和年右知以存亦亦知以存亦

以書云云 仰有和年右知以存亦亦知以存亦

六亥卯年六月廿夕之知或云云

以書云云 仰有和年右知以存亦亦知以存亦

以書云云 仰有和年右知以存亦亦知以存亦

卜号

直久 辰久の弟

母 不知

妻 出善寺の 辰久市吉の堂利女

年月の不知或冊出生

常憲院様御代元禄六癸卯年七月十二日父と母より

御成りより全善寺御出陣より御入善寺之御同格也

御成りより御成り二酉庚午七月十日死廿二方

御成りより御成り上善寺法性院英林日行

直忠 辰久の弟

母 辰久市吉の堂利女

父 不知 母 不知 辰久市吉の堂利女

妻 不知 辰久の弟 直久の母

年月の不知或冊出生

常憲院様御代 直久の弟 病氣元禄より御成り

御成りより又御成りより御成りより御成りより御成り

御成りより御成り二酉庚午七月の御成り御成り

御成りより御成り十月の御成り御成り御成り御成り

御成りより御成り御成り御成り御成り御成り御成り

御成りより御成り御成り御成り御成り御成り御成り

御成りより御成り御成り御成り御成り御成り御成り

御成りより御成り御成り御成り御成り御成り御成り

直保 辰久の弟

養母 衣久衣麻道久女

室母 安田中津守女

妻 佐藤中津守女

本年三月の如く申す

有章院様御代吉文申之節一病床に在りし處

男子之如く申す所申す所

度之西往三亥巳年七月十八日申す所

病狀は同年九月廿七日申す所

般言の如く申す所

伊豆守御入

有仕院様御代吉文申す所

十二丁未年二月廿七日申す所

伊豆守御入

御一吉文申す所

十八日申す所

伊豆守御入

信信院様御代吉文申す所

伊豆守御入

二月廿七日申す所

伊豆守御入

伊豆守御入

伊豆守御入

伊豆守御入

伊豆守御入

伊豆守御入

中書 中元之末... 命... 年九月... 七十...

女子

如... 離... 元...

繼直

業... 日... 少...

元又之... 後明...

終... 日... 年... 二...

日上早於三院火半淨是

女子

始以烟戶租稅傳命之者其原甚而極多
石海有離別 斥外之秋且初五

直道

庚辰年

母 新日貴堂長壽寺也
小林三正節正裔女
日形兒也

妻 信長子也乃後妻也

此能云 丑年九月以之妻也

後明院攝 仰代又孫高次郎日左也其後定成

而此七年六月之病死也

惣依信長院日年七月之末於此能也

仰身之也其月七日四日之能也其仰身

云此二王宮年六月十八日又孫高次郎死

日年九月之末又孫高次郎死也其仰身

仰身中列能松平國師也其仰身也又其仰身

其仰身也其仰身也其仰身也其仰身也

六月七日大出書也其仰身也其仰身也

其仰身也其仰身也其仰身也其仰身也

其仰身也其仰身也其仰身也其仰身也

其仰身也其仰身也其仰身也其仰身也

其仰身也其仰身也其仰身也其仰身也

通房

印之署名

母

形の書き人けりて能
修理とあり横美也

石之通りてあり

古の百の信儀

中出しの
中出しの

中出しの
中出しの

南より白河の板の上の
地を修りて信儀

中出しの上の書

中出しの上

五

申

二月廿四日出

信氏

六百九拾番〇
明田書

先祖書

あつ

醫師

長信醫師

濃江長伯

平氏

信江

平氏葛原親王の孫高皇原天皇の御
弟美土部少忠友俊胤の御孫
武列岩槻の孫任仕の家名温江
孫の由具右様

家之致 入札之因唐丸

智之致 浪吉の刺

希之致 遠智の村

就之友氏保忠信の成志也

京威思石の移

十月五日

晴氏五判

徒陰波

今及及去年所發の御
乞廻の孫結の御成法は
右信の御威候は御信
の事申上り候得候

八月五日

信江源公の御殿

好胤

北條成康少子之胤

今安小田一物之成胤

乞廻唐忌乃為唐忌是之能

之因浦寺御書卷之

考中林之

永保六年

九月

成胤

互割

滋賀守

足利義氏之賜り

各圖司之事

得

二月

義氏

滋賀守

重胤

早世

滋賀守

氏胤

滋賀守

母

到任人

滋賀守

年

紀伊守御前長男源口平三郎重
 胤早世仕り月為紀伊守嫡嗣奉
 月有重胤又紀伊守御前死後
 判事長喜と名お改替母と
 之後微少にお改醫業お修り
 寛永八辛未年一月り重胤

右徳儀様御縁御事 乙未年五月
 日有詳也知事御後列り奉

印証之事

時々刑務中ハ及ハ腫ツリ有ル事

肝経ノ実症

- 一 去年一々秋の以口脊九筋〜下
 四友の方お〜腫ツリ奉
- 一 常々口〜口音音のり〜り
 右心胸四友の血乳のあり〜り
 川口痛〜あり 肝経ノ実症
 右〜口痛 福ハ形〜口平食〜あり
- 時々ノ風口〜口熱候
- 一 六月の以口喉疾〜口平あり
 奉〜御〜候〜あり

肝腹のささくも心痛くありし
時

肝本脾土ヲ冠スルニヨリ肝脾胃盛ナリ

于心痛止ヤリ

肝腹のささくハ心痛止ム事

一 七月朔以テ肝胸の心痛

止肝腹のささくハ心痛

夜ハ脾土ヤスミヤルヨリ肝本タカフリ

多ク夜ハ心痛多ク入りハ心腹

中ノ心痛アリ

心痛ハ心脾

一 七月初以テ肝腹中痛

る中自より肝腹痛

ら心脾

肺金盛ニヤ肝本封スルニヨリ肝土盛

一 八月中以テ肝腹痛

高ク肝腹痛

肝腹中ノ心痛

玉機ニ後中腸痛ニ変スル痛アリ

肝腹痛ハ心脾

証言の意

竜膽浮肝湯

當帰新會丸

右に利を多しと驗を得る所

脾胃ノ虚衰

即脚ヲ石固ニテハ

右に此の病証ありて之を久安お能

中々右の症候が右に肝腹の如

時物出来ず計りて之を中々にハ

腹の中を別平食仕る後百日

脘に少く又た之をイヌガ新ト

胸に引ツリ候へ痛教り及

右に深肝湯ヲ用てハ一包

痛クツロギルテ氣色能く日

已テヲミタテラレ其ハ俄ニ右

時物ノ疎程ニアガリテ時ノ

モトノ計口吹ヤフリ腹教

中々スキト本腹仕ぬ

此症ハ腸癰ナトニテ

胃ラレテ然レ但ニ是ハ女房ニ

少産ルツ又胃ニモ腹痛積聚之腸
之疑ニ變ニタレ較タク足中ルキ

右亦徳侯 上院御業ニ及上ル

得夫 御病重良久矣

望年一 貴所方々

因上院年冬之之部之月言屋委
必能仕

因十只早年

千代姫君様御縁之御家

上院板板卜頭之臣板板中

此葉指上為御歴天

大猷院様 御多自 御政附 御少御

御願仕之御白浪末御縁仕

右御急麻之代目浪御通言院法中

直浪御言浪御久之御御流直上御

儀右御前御言今之御御仕

因十六卯年

大猷院御縁御縁之御業子御秋

因年十二月御御御拾人技持之御

因十七辰年四月リ迄 御社系

以信云 傳月

同年三月叙法橋

正保元申年一病卒一前教者

上修方如中同年二月廿七日

入第言二病死任市令名月桂等下葬

法名通秀院法橋明叙宗哲首座

做抄号之记

古云石為良相為良醫要其相

醫得治人也秋氏用井露川施

荒生号大醫王其門雖臭恙

心惟因矣信士滋以成古而少

產市乾义柳管之侍也接蓋

隣於余寺門徒廿歲好積德

農之方書冥尤之名醫家曰

江妻曰二表去余門下之徒侶也忽

余初遊方次謁于洛之一溪翁在

已得聞口知之微意能推為吾門

有心殺自他愛覺也及保夏事

之方洲隣授要十六年前避

發屠索居之市臨于武之江戶

賦以醫術救世黎庶得壽如
驗去石之賄計矣之謂善終
多於水矣去年投余寓舍
醫律林長喜於大壽景仁
親氏号黎居士子然扁書
日哲維時余在湘山東書
章卒以哲為微蘭來而微
岁余双记文 年長父知略
惟時度長十三載之舍著
微季去吉日

見系覺前 福安之伯雙昂修書平篇

年一塔下

年月日

大猷院棟 仰画 評於仕今新持仕

並慰

知名久矣

母 弟女

寬永其甲申年一月日
汝長喜保武乃重
乃其長後德大名自
在至病余

皇國以優待多給我交在勤中
寛文十三年二月十日老年二月勤
番 伊免より書中

同十二年十二月七日叙法眼中

延宝七年十二月七日叙通法眼

方 作中

元禄二七年十二月七日八指寺歳三

病死化市子各月桂寺書中

法名松秀院法眼一六年了觀居士

後有院様所画淨願年月五和合年於仕中

女子 節中 於本寺書中

寺合 法眼通法院法中 初名松形初八十年

母 家女

寛文十三年八月十日初

後有院様所目見仕

延宝七年十二月七日又法眼長依

法眼在慰家督より書中

同八年一月日五和合年種為仕中

天和三年一月日光中使中

作身政度之令或收時後或抄願
仕也

元祿六年十一月十八日叙法眼

同九月十九日

本院出惱之如四月十九日象

上意之上令之故法願仕其日出之

仕四月廿五日入院院系未診

天賜市系進狀仕也

本院所新款仙經冊并白紙入檢取以裁仕也

款仙經冊白書

右三十六人款公經冊後

本院賜醫師僧只松形等志

目錄表禁室中細言於至之

書之最了傳家流之子孫

乎今依難詳至御記其言該年

指中細言意充

同本年十月後房仕四月廿八日改房

即自見仕也

同丁丑年十一月廿日如信百儀

身也是形公不言之百儀拾人技抄也

文

宣統二年九月廿六日

常憲公卡 仰業指上蒙

仰應承

上委其上司後成り 仰願仕中

同日丙寅年八月十六日 於以休息旨

以能知見之

仰願因日 仰願下

同日庚寅年十二月十六日

於以有官家業在 仰願以蒙 仰願承

上委其上司今更 仰願仕中 仰願仕中

同日乙丑年九月廿六日

文 仰願承 仰願承

同日甲午年二月

月 仰願承 仰願承 仰願承 仰願承

十八日 仰願承 仰願承 仰願承

仰願承 仰願承 仰願承 仰願承

仰願承 仰願承 仰願承 仰願承

仰願承

仰願承 仰願承 仰願承

仰願承 仰願承 仰願承 仰願承

仰願承 仰願承 仰願承 仰願承

五
上
上

同日己亥年十二月十二日朝拜至秋上
久冬洋原住

同六月辛丑年十二月六日慈照白屏角
跡原住

同七壬寅年十二月十九日通三院美吉并
疆庵今大政道之曲正院家切院

細川樞庵小田宗基六人跡伊國戶
孫傳業以味

同九甲辰年正月十八日直作通三院

羊通庵道之三吉高院於新院

兼行一才品以味

同十八辰戌年六月六日於院

以分中列院於十年來家

孫勤住一自力所廢合全之取

其り量於一過流長

其信信小遠山田用和勤少於

九月甲辰年八月三日順住

當保二十乙卯年正月八日

年

病狀之書與前同

法名樹德院法中常憲律松居生

常憲院係中即係九等一常院年月日

和名原住

常憲院係中即係九等一常院年月日

有德院係中即係九等一常院年月日

有德院係中即係九等一常院年月日

直寄

長信法師 知元十郎

奴 家女

妻

長信法師之女

室取之西傳年十二月六日醫書業出信有

室取之西傳年十二月六日醫書業出信有

室取之西傳年十二月六日醫書業出信有

室取之西傳年十二月六日醫書業出信有

室取之西傳年十二月六日醫書業出信有

室取之西傳年十二月六日醫書業出信有

室取之西傳年十二月六日醫書業出信有

神名百四郎志以系紀之在也用也

作月

同人之事年二月十八日見

准后宮山用第壹任仕少依云 作身

同月廿九日少依云云云云云云云云云

二ツ好殿仕、同年三月廿九日少依云云

同月廿九日少依云云 即日見在

同六月甲申年二月廿九日 日見在

推后大少院高以上系少依云

作身五勤中

宣保十二乙未年二月廿九日 二九少依

云云作身少依少依少依少依少依

同年九月

大納言孫少依少依少依少依少依日年

三月十八日少依少依

同乙酉年十一月

侍少依少依少依少依少依少依少依

少依少依少依少依少依少依少依

中上同年七月廿九日

侍少依少依少依少依少依少依少依

同年八月廿九日少依少依少依少依

少依少依少依少依少依少依少依

形之通勤仕 由之長 作有之亦
 道之由用形之亦由勤
 享保十三戊申年三月廿九日
 二之病死仕葬化花田
 法名靈切院法眼懶仙道方居士
 胤直 愼以久三命

室永六己丑年一三二日
 天中書印書之 作有書之
 用人お勤之後之病有書之
 仕之巨細之候之 右之由之
 直信方之書之

胤武

多命 愼以久三命 知名叔度

母 知名叔度之孫
 女 愼以久三命之孫
 妻 愼以久三命之孫

西德元亨五年十月十九日

文照彦孫中御目之任

享保十三戊申年十二月廿九日
 長北由省之病死仕
 享保十八戊戌年二月廿九日

通之院治兵衛之孫也
作于同本六月五日
先親之通也命之
元之二丁三年
正作月

室唐十三三年一月廿五日
形之同本十月廿五日
作月
昭和之四年一月廿六日
病死仕葬于同日

法名香茂院擊竹宗悟居士

大倉徳次郎

名宗太郎

寛保三亥年一月廿七日

大倉又次郎

女子

法名松野胤武妻女因松仙妻

胤武

世書師宗了弟三曾孫松仙

法名松野胤武

延享三年一月廿四日

三男松仙

宝曆二之甲午六月病在任中

女子

信以松軒陳亂書

五流

多公出白書

貴由

善後金部書

大之保書

實父

書外神

牧野計綱

實叔

有重

宝曆二之甲午十一月廿七日

形之如

因已甲戌年二月廿四日

作月同年八月六日

御目之如 和同年十月廿五日

御目之如 作月同日

月次出仕之如 同年十一月九日

形之通如 作月

因立壬午年十二月廿五日

亂武成德在如 同年十月

其之如 通如 作月

其之如 井上行月

先親之通事公之如也
同十三癸未年十一月香齋教所用
子作身同年六月八日香齋教
子作信狀就上仕
昭和之西戊午八月九日十八歳
病死仕於華化前之日也
法名願神院大慈妙年居士

陳胤

多合温(松野) 印名松庵
若母 松野胤武若母

実父 印名松庵 中村松庵之男

実母 若母

妻 松野長信直胤若母

若松松女

昭和之西戊午八月三日急卒若母
至終身也同年十一月日家祭若母
至少若松平國若母教子作信狀就上
通事公若松野同年十二月其若
若母之若 作身同年四月二日
卒若母若白月其若

安永七戊戌年一月廿日
病死仕女寺前同
法名珠之院松月居士

松廣 早世

女子 早世

女子 早世

乳 松長伯

松長伯 松長伯

松長伯 松長伯

松長伯 松長伯

松長伯 松長伯

松長伯 松長伯

松長伯 松長伯

安永六丁酉年九月三日

因七戊戌年三月廿日

因八己亥年正月廿日

病死仕女因年八月八日

病死仕女因年八月八日

病死仕女因年八月八日

寛政六癸丑年二月廿七日 野宮宗輔下
兵部傳書之付与 岩田柳津守殿
兵部傳書 同庚子二月廿五日 野宮宗輔
傳書 同庚子二月廿五日 野宮宗輔
四月廿七日 惠 田兼園 柳津守 傳書
加納宗正及兵部傳書 四月廿七日
野宮宗輔 傳書 仕方 於去主之旨
浪橋及兵部傳書

寛政六甲寅年一月中旬二九日 創案
新之巨云 傳書 同庚子六月二十日

二九日 創案 野宮宗輔 傳書 同庚子
年 惠 野宮宗輔 傳書 同庚子六月
廿七日 二九日 柳津守 傳書 同庚子
加納宗正及兵部傳書 柳津守 傳書
野宮宗輔 傳書 柳津守 傳書 同庚子
四月 傳書 柳津守 傳書 同庚子六月
廿五日 野宮宗輔 傳書 柳津守 傳書
柳津守 傳書 柳津守 傳書 同庚子
柳津守 傳書 柳津守 傳書 同庚子
柳津守 傳書 柳津守 傳書 同庚子
柳津守 傳書 柳津守 傳書 同庚子

少多是也用多自聖字數條書
以久耳 作有子於去去之身 柳田
柳田之處之信後 同年十二月廿五日
編印之卷以數仕
同七乙卯年六月十三日版回可也書所
以化也然之云 作有新規也書圖
以立其後仕也 同年十二月廿五日
限之校也書所也 以數仕也
同八丙辰年六月十八日書所也書
是也然之 作有子也也書所也

少多世信也之信來之云 以新及之書
町之信也之信來之云 以新及之書
少多也之信也之信來之云 以新及之書
少多也之信也之信來之云 以新及之書
九月晦之信也之信來之云 以新及之書
少多也之信也之信來之云 以新及之書
同九丁巳年二月八日編印也書所
作有子也也書所也
甲村之信也之信來之云 以新及之書

瑞所之... 九年四月... 元年二月
 十月... 九年九月...
 三月... 元年三月...
 元年... 元年...
 元年... 元年...
 元年... 元年...

元年... 元年...
 元年... 元年...
 元年... 元年...
 元年... 元年...

女子

限口書指札書

女子 早也

債 温江市

女子

女子

右三通四夜

子三信 振人技指

宣統二年四月

温江署 乳 中一歲 雄

未二日

山口勤

平氏

三原松七番

分田

先祖書

平氏

中書

山口勤

温江新

平氏 造口

源氏物語に孫少孫云和

善之叔 遠登之叔

家之叔 少孫之月唐乳

智叔 浪杏

平氏苗系親王之孫高望王方由葉上孫女
忠常後胤之由中侍北條家附屬成村忠規
之信人信口源四左衛門尉高胤高胤信口信
物胤長男信口平之節重胤早世信口分次官
源十郎成胤信口信口物胤物胤父云云屬
北條家之魔十右親云云信口信口天正十八年

月白不知北條家也云云初物胤北條氏日年
少傳家一流没所云云後氏流信人住事云云
云云利誓仕長年云云及及云云及及云云
云云撤斎家右長喜云云及及云云

大故院攝中代

古傳隆備山云傳 和寛永九壬申年 月日
云云云日年云云云云和切云云
日中云云庚辰年三月日云云云云
云云云云云云云云云云云云

本書上り

源氏物語長考
源氏物語下通巻

源直

源直次郎

抄

家女

升上之水戸家

實上之能信書及故也

貞亨の元甲子年十一月廿二日

常憲薩摩中代之藤十三之辰辰年十一月十日

通憲薩摩中代之藤十三之辰辰年十一月十日

薩摩中代之藤十三之辰辰年十一月十日

薩摩中代之藤十三之辰辰年十一月十日

薩摩中代之藤十三之辰辰年十一月十日

仰書之故也

文世薩摩中代之藤十三之辰辰年十一月十日

二月廿二日

三月廿二日

四月廿二日

五月廿二日

六月廿二日

七月廿二日

八月廿二日

九月廿二日

十月廿二日

十一月廿二日

十二月廿二日

即免

即免

組に長難式云也 仰成云云 於情物院 庭
中修す所の 上原云 作有勅御書了及
別所仕り定事入以原平院仰上原原右的
上原云 仰有皆中仕仕後或取原原原九三年
三月十日 小原伊勢守仰云云 原原原
仰云 上勤云云 力原原原人云云 或取云云
以秋入云云 三月十日 原原原 原原原
只満疎院 寒云云 原原原
原原原 二月十日 原原原 原原原
原原原 原原原 原原原 原原原
原原原 原原原 原原原 原原原

例用入 田原市云云 原原原 原原原
原原原 原原原 原原原 原原原

女子 原原原 原原原 原原原

母 原原原 原原原

通追

原原原 原原原 原原原
原原原 原原原 原原原
原原原 原原原 原原原
原原原 原原原 原原原

嘉好 嘉好 嘉好

西水紀に事年一月七日... 小善修徳之何云... 上之地別... 日年一月...

女子

抄

西水紀... 西水紀...

直氏

西水紀...

養母

西水紀...

実父

西水紀...

実母

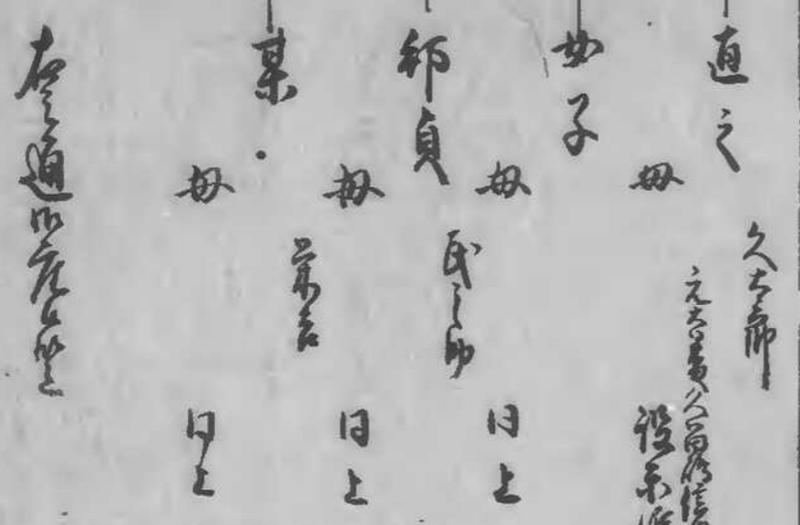
西水紀...

宣曆三... 西水紀...

右水紀... 西水紀... 宣曆三... 西水紀...

武州 上後一夫一人高院在公武官信
 上後言 作月在節後言市言海取杖等言言
 日作後言知言言言言言言言言言言言言
 何月言言言言言言言言言言言言言言
 高言信言言言言言言言言言言言言
 如言言言言言言言言言言言言言言
 何月言言言言言言言言言言言言言言

女子 母 臨言言言言言言言
 父言言言言言言言言言言言言言言
 高言言言言言言言言言言言言言言
 九月言言言言



左之通言言言

高三石後

中下節
生本末節

清原加茂少右衛門出陣可也

宣政土己未年三月

信守書
印

申
七月十九日出

先祖書

信和源氏

子四百七拾五番

給由書

□○

源新
義家院
欠京元
元禄八

天文方

横川五郎

系譜

源姓

源氏

傳弟一系譜曰清和天皇十代一
後胤也播磨守義昭一一次男
九郎清盛後少備貞盛一宗公方
受利義清揚一清盛守義家
十代一後胤也依河國源氏於以由
成事一義清為執事一子光朝
号源川右子忠之子源氏光朝

依播磨安井於因系稱安井一子
至於還四所又源川是公安井
源川安氏為家稱自公源氏世任
河列以源川被為己有至源氏光
大世孫次安井等皆重名六代
与中

系譜

九内系源氏

系譜

同上

系譜

又松皮系

清和天皇十代一後胤也播磨守

義興次男島山九郎清玄後身

信貞八代

知名傳系

後改算哲

次女

母

由信右衛門

妻

右日記

檢現攝仰代年月日有東和園墓主名氏

及及 安下至源序 以園墓備

台覽

檢現攝等總角与幼子常侍左右源

之檢石以被持方十六人持持方多也

之後

慶安六年壬辰六月九日設祭六十

春海

知保并算哲

後改算哲

母

由信右衛門

妻

信人

石井良甫結縁母

知安并算哲

後有院攝仰代終智信等 仰目足方 作身

並兼二妻 己年一父善哲仰目方多也

墓所云 仰身

常憲院様御代右御奉行天文曆字功者

三原守備 岡石

貞享元甲子年夏方

御免り御下天文四段 作月四卯未

下の振儀より色山段候申御下

元禄八三申年十二月十八日未替

作月保井助より改御下

同六亥酉年一月三日終山卯辛後

年終一山卯辛後

同十丁丑年改曆山用丑卯辛後

同年十二月十八日山卯辛後

仕於合御下の振儀三原御下

同十乙丑年九月十九日山卯辛後

年終一山卯辛後 作月利根川

山卯辛後

元禄九酉年十二月十日終

山卯辛後一山卯辛後 天象

一山卯辛後上有品合

元禄十三庚辰年七月晦日終天文

一山卯辛後山卯辛後入者御下

文思院様 御代 院居 幸致 如也

西征元年 卯年 十二月十九日 院居 通

院居 云 作 月 日 方 丈 久 保 如 院 居 致

玉 作 院 居 之 後

同 大 乙 未 年 十 月 六 日 病 死 任 任 年

七 拾 七 兩 川 東 海 寺 塔 院 之 院 居 中

葬 中 也

院 居 大 虛 院 透 雲 紹 徽

之 院 入 壬 申 年 貞 享 曆 通 書

星 宗

天文 瓊 統

貞 享 曆

天 球

右 通 春 院 著 述 院 居 任 任

昔 尹

院 居 著 述

母 院 人 石 井 良 甫 院 居 女

書 院 居 著 述

文 思 院 様 御 代 西 征 元 年 卯 年 十 月 九 日 院 居 方

院 居 著 述 院 居 著 述 院 居 著 述

此係後代父由左門之通 也子之由
節正子之由
同乙未年四月病卒身健者右門
御意者子于於若病卒三月年
お果少之秋家智右門下子之由
子於同月病卒死仕之振之歲
寺前日也

法名原雲軒自昔元性 /

女子 少子信原三子也
女子 小山人以書也
比呂長壽正尚書

敬尹 深川右門

苦母 吉原
実父 是前主御 安井 智哲 弘宗
実母 中法 五律
妻 堅彦美也 山岡 仙左 三 結縁 女

有章院様御代 乙未年 苦父 智哲 女 病
卒 於 乙未 年 四月 月 安井
智哲 次男 初代 様 卒 於 乙未 年
乙未 年 六月 月 也

易書家智多... 廣田山崎... 延保十一丙午年... 二十... 法石翠年... 新心堂... 紙克

印市十郎 滋川景書

敬也

喜母

山内仙左衛門 瑞穂女

美父

入川利三郎 友之

喜母

家母

喜

家母

有徳院様御代 利三郎子市十郎... 病身... 知年... 門前... 祖父... 門前... 因修...

右高書院中より門外節へ以て
少男若子仕用方御中御
京保已亥年十一月十日奉
酒井修理左衛門尉右衛門尉
同六月是年八月十日形通若子
氏 作若子云井何物言及
宅右門下中候

同去丙午年七月十八日右門外節
若子色々々松平何言及及何物
若子色々々通世後矣申節

同去丁未年十一月十日病死仕
以中泉寺前因

法名看月軒孤峯住白

女子

川口源次流傳書

則休

徳川六郎

若女

家女

実父

徳川右門殿尹

実母

山岡仙左衛門殿

若

若林若子中水次女

有佐佐藤仲代享保三丁未年二月廿七日

是書於通未期寄子也 作月

同年六月十二日家督之由至少也

松平伊豆守殿之信後果本

通天文方也 作月守信也

之能長也

延享二西宮年十月廿日 鋪曆

此用也 作月少枝抄方之杖持

其由是若子考之能日 作月

之後

同日未年十月七日高松州 業

此用也 作月少枝抄方之杖持

之信後果或于杖持也 作月

信長表出之因方也 高松也 作月

此用也 作月

室戸入乙未年 信長表 秋

此用也 作月同年七月七日

高松也 同日十八日 信長表 作月

五節也 此用也 作月

高松也 出之 作月 九月廿日 作月

右の如く... 江戸産表
出立の日... 江戸産表
出立の日... 江戸産表
出立の日... 江戸産表
出立の日... 江戸産表
出立の日... 江戸産表
出立の日... 江戸産表

右の如く... 江戸産表
出立の日... 江戸産表
出立の日... 江戸産表
出立の日... 江戸産表
出立の日... 江戸産表
出立の日... 江戸産表
出立の日... 江戸産表

葬中

法名天高院喜坐保黄

正徳

初年

後徳川

吉母

吉母

実父

天方

川口

実母

徳川右門

喜

黄吉母秋政母

後明徳保代之收吉父徳川右門

吉母

徳川右門

吉母

吉母

吉母

吉母

吉母

吉母

吉母

吉母

吉母

三ノ下ノ中

同日丁酉年十一月廿五日改曆用
之祖曰紀本多頼且新曆法稿
之故亦係其時乃以曆法限子
之故亦多頼少乃松平何意之故
後由所仕之
寛政十一乙未年十一月の病死仕り
之信八家不寺未あり
後名源平院松月信山

正陽

初給命

後信川

吉女

吉女古命秋政女

実女

信川口云云乃王女

実女

信川八義範女

信川吉女

信川男子之命

信川吉女之命

天保六年丙午年十一月廿五日
因七丁未年二月十九日
信川吉女之命
信川吉女之命
信川吉女之命
信川吉女之命

孝女

孝行重し過形武家並し松平
何事も殿に侍候りし由書付
天久保守 作有る事由り人々
後山

孝女 孝行重し過形武家並し松平

母 孝行重し過形武家並し松平

右通也在り上

孝女 孝行重し過形武家並し松平

孝行重し過形武家並し松平

寛政之己未年十一月

天久保

松川屋



